



# 歴史ロマン古道ニュース

【発行】歴史古街道団

ホームページ <http://rekkodan.a.la9.jp/>

事務局 〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮4-7-10 濱野千秋  
TEL 042-373-7382 (事務局長)

歴史古街道団 団長 宮田太郎 TEL 090-7002-3431

アツマの国 の旅に出よう!!

## 歴史ストーリーを活かした“東国・歴史フットパス”

関東・甲信越・東北・北海道を合わせた“東日本”=東国の歴史の魅力 古道の価値を再発見しよう

### 国内を歩き・楽しむことから始まる経済活性

昨今では国際情勢の問題が発生し、一時的にせよ近隣国からの観光客が減っている。かつての江戸時代の日本は鎖国政策を行なっていたが、それは大海の外には閉鎖的でありながら、一方では内需拡大に多いに貢献し国内景気が上昇したという事実があったことがわかっている。鎖国自体は現代の国際貿易化時代では考えられない極端な経済施策だが、いまはその利点として的一面にも学び、覚悟だけを踏まえて今はむしろ内なる観光活性で内需を立て直す時期なのかも知れない。

### フットパスの力

地域の魅力とは何かを考える時、一に「風土・景観の美しさ」、二に「歴史・文化の面白さ」、三に「人の温かさ、来訪者への積極的な交流力=テンション」が思い浮かぶ。しかもどんな奥まった小さな山里であっても、人間の営みが行われて来たところであれば、古き道があり、地域の暮らしの証があり、人間ドラマの数々が眠っているはずである。歴史的な背景の中で醸成してきた各地の文化を外部の人間が知り、味わい、楽しみ、

これまで全国の観光地の中には、中国や韓国などからの客をあてにした試算を元に整備や体制つくりをした地域は少なくない。しかしながら不安定で変動的な試算は國の為にならないばかりか、地域活性の命題には応えてはくれない。

日本人がもっと日本各地の魅力再発見を行ない、“旅好き＆遊び好き”だった江戸時代人们にも学びつつ、国民が日本列島を往来することの楽しみや豊かさを持つことが、長い目で見た内需を柱とした経済活性につながるはずではないだろうか。



「歴史フットパスで地域の魅力が見えてくる」  
(小野路関屋の切り通しで)

交流するには、英国から日本にやって来た「フットパス」という新しい「魅惑のそぞろウォーク」の考え方方が最も適している。

「ありのままの生活の中の小径を歩き、地域の人たちと交流する」というこの考え方方は、実際に地域を元気にする不思議な力があり、また国内に3700箇所以上もあると言われる限界集落にまで、新たな人的交流をもたらす可能性を秘めていると考えられている。一部の官公庁の担当官からまさに「地域経済活性の最期の切り札」とまで言わせるその魅力は奥が深い。

### 東国・歴史フットパス

関西では、今から20数年前から、歴史ある主要な観光地域を結び、協同したPR活動で観光活性する「歴史街道」という連携事業が、官公庁指導のもと、自治体や大手企業が協議し合い実施してきた。飛鳥・奈良・京都・神戸・伊勢・熊野——私たちが行ったことがある代表的な観光地のチラシやパンフレット、番組などにはそのロゴマークがくっついているのを目にした方は多いだろう。

しかしその観光形態は、地域の各所に根差した地域人と訪

問者の交流型ではない、いわば一過性な王道的観光手法がメインになりがちであった。代表的な地域の寺院や歴史ポイントや土産物地を廻るものが多い。それでも経済効果を考えた施策として機能し貢献してきた意義は大きいことは間違いない。

さて、東日本はどうであろうか。残念ながらこんなにも広大かつ重要なエリアながらまだ小径や古道を活かしたような官公庁の地域連携施策は出されていない。日本の半分である東国の中で、関東の一部だけでも、世界にも知られた有名な歴史観光地はたくさんある。それは言わずと知れた江戸・東京、鎌倉、横浜、伊豆・箱根、富士山、日光などのエリアであるが、

武士政権が樹立された日本三大幕府のうち二つの本拠地があり(江戸・鎌倉)、室町幕府だけは京都に開かれたが、その礎を築いたのも関東の男・足利尊氏であった意味は大きい。古代の軍団・防人たちも、鎌倉武士団も、江戸幕府体制の武士たちも、古代から培われた高度な生産能力と協同する力が下地にあったからこそ、独特な歴史と文化が成立し得たのではなかったか。

関東全域、甲信越、北陸、東北地方、それに北海道を加えた「東日本」全体の、縄文王国連合の歴史をスタートとする、独特な文化の発展圏の歴史観をいま見直し、また古・旧・新につながるその魅力を再発見したら素晴らしいと思う。

「道」を活かすことで山里の奥の集落であっても、都会からの来訪者が時折訪ね、地域のお年寄りと、旅する若い世代や熟年世代などの間で幅広い交流活性の機会が起きうる「不思議なフットパスの力」で日本を元気にしたい。

いま、これらを“東国歴史フットパス”と命名し、これまでの当・歴史古街道団のノウハウと実践的実績も原動力の一つに加え、東日本のあらゆる企業、電鉄、NPO、博物館や郷土館、観光団体、農家などとが協同し、民間力でのプロジェクトとをいまこそ立ち上げ、「自立する東日本・経済協同体」をフットパスで創り上げたいと思うのである。

### フットパスイベント

《日本フットパス協会全国大会》茨城県・霞ヶ浦・行方市

## 11月3日(土)~4日(日)「なめがたフットパス」体験参加ウォーク

主催：行方フットパス実行委員会・日本フットパス協会

**【内容】** 英国から日本にやってきた地域観光活性の新手法である「フットパス」は、ありのままの暮らしの中にある「道」「小路・小径」や里山の道を、そぞろ歩くことで交流が生まれ、地域も自分も元気になれる魅力のウォーキングです。

町田市の観光コンベンション協会内に協会本部があり、全国から団体が会員登録し楽しんでいます。当・歴史古街道団も昨年から会員になりました。毎年の大会は各地であり、今年は多摩や町田ともゆかりの深い茨城県行方(なめがた)市で開催されます。

また3日のセミナーでは宮田団長が「地域資源に光をあて生命を与えるフットパス～東国の歴史ストーリーを活かす試み～」と題して講演を行ないます。その後の楽しい交流会で全国の仲間と情報交換し、4日は行方市内の3コースに分かれてのフットパス体験があります。(大きな白い帆を張って霞ヶ浦で網漁を行なう帆引船見学コースもあり。)

\*なお前回団報でお知らせしました歴史古街道団主催のバスツアーは都合により中止となりました

### 東国歴史フットパスをあるく①

## 11月23日(金・祝)「古街道の集まる歴史古道の里・小野路」

主催：東国歴史フットパスPJ

**【内容】** 東日本の歴史ストーリーを活かし、古道のフットパスウォークで東国を観光活性しようという目的のNPO活動が、電鉄、企業、市民団体協同で始まります。その準備会が主催する第一回歴史古道フットパス・ウォークが町田市小野路において開催されます。お友達・ご家族で、日本を代表する古街道の里を歩いてみませんか。

**【コース】** 多摩センター集合～路線バスで恵泉女子学園前～鎌倉古道～小野路関谷城～家康の御成道～昼食(一本杉公園または近くのファミレスで自由)～中尾の奥州古道～小野路城址～小野路バス停からバスで多摩センター駅  
参加費1,000円(同伴家族無料) 約5キロ 解散は15:30

**【申込み】** アイネストラベルサービス ☎ 03-5340-3330 (根本・谷畠)

## 宮田太郎団長と行く ロマン探索ウォーク

### 日帰り探索ウォーク “武相国境線”の謎を探る⑤

## 「東戸塚から保土ヶ谷戸塚境の国境」編

2012年 11月25日(日)

**【内容】** 武蔵国と相模国の境界線は、東京湾と相模湾のどちらに川の水が流れていくかで振り分けられて引かれたことが見てきたこのシリーズ。まさに飛鳥～奈良時代の国造りの知恵と実地に立った作業の積み重ねであったことにあらためて感心します。今回は神奈川県の戸塚西方の古代国境を探っていきます。昔の面影が残る境木地蔵尊付近は、近世東海道と武相国境線が重なるところ。品濃町の一里塚付近からの素晴らしい眺望は思い出に残ることでしょう。

**【コース】** 横須賀線「東戸塚駅」改札口前に午前10時集合～オーロラシティ～旧東海道～品濃町の一里塚～境木地蔵尊と国境の木～山王山公園で各自弁当昼食～武相国境を横浜カントリー方面へ～横浜スポーツマンクラブ脇の古道～東戸塚駅 約5キロ 解散は15:00



### 日帰り探索ウォーク “武相国境線”の謎を探る⑥

## 「戸塚・六ツ川の国境古道をあるく」

2012年 12月19日(水)

**【内容】** 戸塚の東方では横浜市南区との境を南北方向に国境は走っていました。

江戸時代には東海道の坂道として知られた権太坂を北に見ながら見晴らしの良い尾根を進みます。六ツ川の引越坂付近でやや境界古道は不明になるものの別所から下永谷で再び明瞭になり、いよいよ右手に相模湾、左手に東京湾を感じられることでしょう。

**【コース】** 横須賀線「東戸塚駅」改札口前に午前10時集合～路線バスで境木地蔵尊～旧東海道～権太坂～南方に曲折する武相国境～平戸のファミレスで自由昼食～平戸と六ツ川境の古道～引越坂交差点～別所の古道～水道橋下バス停～京急「上大岡駅」または「東戸塚駅」 約5キロ 解散は15:30頃

日帰り探索ウォーク “武相国境線”の謎を探る⑦  
「上大岡・日野川と港南・馬洗川の国境古道」

2013年 1月30日(水)

【内容】最も国境線が不明になり始めている横浜市港南区の日野地区に、馬洗川と日野川に分かれる遺跡群を感じつつ、その境の「相武山」に古道痕跡を探していきます。古代には武藏国久良郡に属していた付近の丘は、鎌倉街道や古代道が交差する謎の多い地域。消滅しつつある地形から古代の国境線を見出す難題にチャレンジです。



【コース】京急「上大岡駅」改札口前に午前10時集合～路線バスで別所の水道橋下～別所4丁目と大久保3丁目の境尾根か、下永谷小の尾根かの検討～桜台地区センター～相武山小～環状2号線「永作」付近のファミレスや横浜市営地下鉄「上永谷駅」付近で自由昼食～港南台ゴルフセンター日野6丁目尾根～横浜横須賀道路を渡る宮久保橋～野庭団地バス停～JR根岸線「港南台駅」約5キロ 解散は15:30

日帰り探索ウォーク “武相国境線”の謎を探る⑧  
「港南・日野南の国境古道大曲り」

2013年 2月24日(日)

【内容】武相国境線が三ツ境の南方の善部町で大きく曲がると同様に、またそれ以上に大曲するのが港南区の日野南エリアの国境です。それは横浜桜木町の東京湾にそそぐ大岡川の支流「日野川」の源流域を、大きく囲むように国境が曲がっていくらしいことが見えてくるでしょう。東京湾に面した磯子を東方に臨み、南に相模湾に面した鎌倉アルプスを望む見晴らしの良い丘の古道です。

【コース】JR根岸線「港南台駅」改札口前に午前10時集合～路線バスで野庭団地～日野ゴルフセンターの尾根古道～表町公園～環状3号線と鎌倉街道交差点「原乃橋」付近(マクドナルド、スーパーあり)付近で自由昼食～日野南鍛冶ヶ谷公園～鍛冶ヶ谷南公園～鍛冶ヶ谷横穴古墳群と大曲りする国境～元大橋の尾根古道～港南台駅入口～JR根岸線「港南台駅」 約5キロ 解散は15:30

## 歴史講演会

### 2013年 1月19日(土) / 『多摩の六十六部について』

【講師】乾 賢太郎さん《公益財団法人多摩市文化振興財団(バルテノン多摩)学芸員》

【内容】人々は参詣や遊山のため、寺社に赴くことがあります。寺社の中には、古来より聖地と見なされてきたところもあり、聖地を巡る信仰は中世にまで遡ると言われています。しかし、当時聖地を訪れることができたのは、公家・武家・宗教者といった限られた人々でした。江戸時代になり、交通網の整備、貨幣の流通、富裕層の拡大が生じると、庶民も全国の寺社を積極的に巡ることができるよう

になりました。また、修行や巡礼を実践する行者も、活発に各地の聖地を巡り、さまざまな宗教者が現れました。ところで、かつては六十六部と呼ばれる行者がいました。六十六部とは、法華経を書き写し、日本各地の靈場に納経する行者のことですが、多摩市内にも六十六部の伝承が残る旧家が存在します。今回は、地域に伝わる資料や言い伝えを中心に、日本の聖地を巡った六十六部について考えます。

【会場】多摩市関戸公民館 大会議室(VITA8階)

【参加費】団員：700円 一般：1,000円

【時間】AM. 9:30～11:30

【申込み】当日会場にて受付 先着90名

### 古代史最前線！ 講演会

### 2013年 2月2日(土) / 発掘が語る“古代都市・武藏国府”

【講師】江口 桂さん《日本考古学協会 会員》

【内容】国府は“古代の都市”であることをあらためて実感しながら毎年調査をされてきた江口桂さん。最近の発掘成果を元に、発見された数多くの遺構から見えてきた古代～中世の道路網や、

国府全体の様相、さらに9世紀代の大地震をも乗り越えて来た古代武藏国府のまちづくりの姿など、その成立から展開までについて興味深い数々のお話しをして頂きます。

【会場】多摩市関戸公民館 大会議室(VITA8階)

【参加費】団員：700円 一般：1,000円 ※資料代含む

【時間】PM. 2:00～3:45

【申込み】当日会場にて受付 先着90名

### 2013年 3月7日(木) / 『東北エミシ古道の魅力』～蝦夷の首長アテルイとモレの砦～

【講師】宮田 太郎《歴史古街道団 団長》

【内容】かつて古代～中世にかけて、関東から東北地方、そして北海道南西部にかけて蝦夷(エミシ)の文化圏が広大な範囲に広がっていました。蝦夷(エミシ)とはいってどんな人々で現代の私たち日本人の歴史の中にどう関わってきたのでしょうか。有名な京都の清水寺の舞台の下には、エミシの首長アテ

ルイやモレの顕彰碑があり、かつてエミシ征討に向かった坂上田村麻呂とアテルイたちの深い心の交流を今に伝えてくれています。関東のハケ岳から東北仙台の多賀城そして一関・平泉～奥州水沢のアテルイの砦まで、エミシ古道の深い魅力をご紹介します。

【会場】多摩市関戸公民館 大会議室(VITA8階)

【参加費】団員：700円 一般：1,000円

【時間】PM. 2:00～4:00

【申込み】当日会場にて受付 先着90名

※ 詳細は追ってホームページやチラシでご案内致します。

# ガイドリー・ダードーと行く史跡探索!

佐藤団員のハケの道シリーズ

## 国分寺崖線の今昔

□ 2012年 11月4日(日) ガイド▶▶ 佐藤文俊(団員)

連絡先 / 佐藤 文俊 ☎ 042-373-3193

**【内容】** 崖線はハケとも云う。その昔、多摩川が削り残した爪痕の一つに国分寺崖線がある。立川の砂川九番辺りに端を発するこの崖線は、武蔵野台地を乗せて約30km先の大田区田園調布で終わる。その裾にはハケの湧水を集めた野川が流

れている。

今回は、太古の昔より水ある所に人々が集い、日々の住処をつくってきたこのハケ道の往古を偲んで歩いてみたい。アップダウン少なく、健康志向の高貴(?)高齢者向け。

**【コース】** JR「西国分寺駅」北口改札前 10:00集合～古鎌倉街道上ノ道跡～東福寺(鎌倉武将畠山重忠の愛妾・夙妻太夫の菩提寺と一葉松)～姿見の池(夙妻太夫の入水池、古代東山道武蔵路推定路)～日立中研南路(野川水源池)～だんごの輪島(ボクシング元世界王者輪島功一の店)～国分寺駅～殿ヶ谷戸庭園(旧三菱財閥の別邸。昼食)～一里塚橋～竹尾家門(豪農旧家の古門)～新次郎池(東経大構内の湧水池)～野川水辺～貫井神社(市内有数の景勝地)～真明寺～滄浪泉園(湧水地形を活かした大正初期の回遊式庭園)～幡隨院(芝居で名を馳せた幡隨院長兵衛ゆかりの寺)～小金井小次郎(幕末期3,000人の子分を抱えた侠客・大親分の墓)～小金井神社～美術の森(昭和26年の田中絹代主演映画「武蔵野夫人」の舞台となつた庭園)～谷口屋敷(地名「小金井」の由来となつた井戸が在る家)～金蔵院～JR「武蔵小金井駅」 15:30頃解散予定 行程 約6.5km

## 「いりまじ」の探索

□ 2012年 12月2日(日) ガイド▶▶ 山下 実(団員)

連絡先 / 山下 実 ☎ 090-5208-3123

**【内容】** 狹山市は古代には武蔵国入間郡に属し東山道武蔵路が通過し、万葉集に「いりまじ」と詠われた地域とされます。中世になると鎌倉街道上道・堀兼道とその枝道が多岐に渡り、入間川宿は鎌倉街道上道の上州と鎌倉の略中間で重要な位置を占めていました。市内には縄文～近世までの遺跡や歴史・伝説・伝承などが数多く残り、鎌倉街道上道沿いの「七曲井」は枕草子などに見られ、野々宮神社と同様に奈良・平安時代が

起源と云われています。入間川沿いには元暦元年(1184)木曾義仲の嫡子・清水冠者源義高終焉の地があり義高のために北条政子が祠を建て供養したのが始まりと云われる清水八幡宮が、奥州古道交差点には義高が追っ手から逃れるために身を隠した影隠地蔵があります。又、元弘3年(1333)新田義貞が鎌倉攻めの際に陣を張り、文和2年(1353)から足利基氏が館を構えたと云われる八幡神社・徳林寺を探します。

**【コース】** 入曾駅東口 10:00集合～鎌倉街道上道～入間野神社～七曲井～野々宮神社～入曾駅=電車移動=狹山市駅東口～鎌倉街道上道～万葉歌碑～八幡神社～駅付近で昼食～徳林寺～清水八幡～八丁の渡し～信濃坂・影隠地蔵～甲斐屋坂～智光山公園バス停 15:00頃 解散予定 行程 約7km

## 新暦七草の目黒七福神めぐり

□ 2013年 1月7日(月) ガイド▶▶ 須知正度(団員)

連絡先 / 須知 正度 ☎ 090-3695-7580

**【内容】** 目黒川と呑川及びそれらの支流に面する湧水点に恵まれた丘陵縁辺を主に、縄文時代の遺跡が40数ヶ所にのぼる。奈良時代から武蔵の国となり、目黒は荏原郡に属した。この頃から目黒附近でも馬牧が盛んに行われ良馬を産しており、馬にちなんだ地名も残っている。目黒の「め」は馬を、「くろ」は畔をあらわし、馬牧の周囲のあぜ道のことと馬の牧から起った地名であるともいわれている。鎌倉道「中ノ道」が区内

を通っていたと推定されている。こうした周辺環境にある目黒の七福神めぐりを新春の新暦七草の日に企画しました。「なかきよの とをのねふりの みなめさめ なみのりふねの をとのよきかな (長き夜の遠の眠りの皆目覚め波乗り舟の音の良きかな)」の七福神。お参りして現世ご利益を祈るも良し、地形や行程から古道ルートを推定しながら歩くのも良し。奮ってご参加を!



**【コース】** 東急目黒線不動前駅改札口 10:00集合～滝泉寺(恵比寿)・目黒不動～蟠龍寺(弁財天)～大円寺(大黒天)～妙円寺(福禄寿・寿老人)～瑞聖寺(布袋尊)～覓林寺(毘沙門天)～地下鉄南北線・三田線白金高輪駅 15:00頃 解散予定

## 鎌倉『百ハヤぐら』を探る

□ 2013年 1月26日(土) ガイド▶▶ 藤田一彦(団員)

連絡先 / 藤田 一彦 ☎ 080-5184-9840

**【内容】** 鎌倉城防衛最北の丘陵の尾根は天園ハイキングコースとして親しまれていますが、そのハイキングコースのすぐそばに百ハヤぐらと言われているやぐら群があります。調査は、戦前、赤星直忠氏により行われただけで、鎌倉攬勝考、新編相模國風土記稿にも記された有名なやぐらも、今は知る人ぞ知

る存在となっています。

今回のウォーキングは、鎌倉の北から尾根を越え、百ハヤぐら、朱垂木やぐら、わめき十王岩から、かつては地獄谷と呼ばれていたこともある建長寺まで歩きます。(やや山坂あり。)なおやぐらを良く見たい方は、懐中電灯があると便利です。

**【コース】** JR大船駅 南口改札 10:00集合～バス「鎌倉湖畔循環」白山神社前下車～白山神社～称名寺～散在ヶ池公園(弁当昼食)～百ハヤぐら～わめき十王岩～朱垂木やぐら～回春院～建長寺(一次解散)～北鎌倉駅 解散15:00頃 各自弁当を持参ください。

# 好評! 月例ウォーキング 多摩よこやまの道を歩こう!

- 11月11日(日) ■12月9日(日)
- 1月13日(日) ■2月10日(日)
- 3月10日(日) ■4月14日(日)

※曜日変更にご注意

**【内容】**毎月定期的にミニ・ガイドウォーキングとして実施しています。「よこやまの道」は多くの古道と重なり交叉し、それらの痕跡や伝説も多く、古道や歴史に関心のある方々に愛好されています。また、里山の自然が残っており、四季の移り変わりを楽しめます。野鳥や植物観察もしながら、この豊かな道を歩き・感じ・味わってみませんか?

下記の東・西のコースを、毎回、季節やテーマに合った所を訪ね、行程を変えて歩きます。(詳細は、チラシとホームページで告知) ガイドが伝統行事等の謎解き、季節の万葉歌朗詠・解説を行います。

● 参加費 / 団員300円、一般500円

● ガイド : 須知正度(団員) (連絡先 ☎090-3695-7580)

【東コース】 11月11日、1月13日、3月10日  
京王相模原線若葉台駅 9:30集合

コース1: 丘の上広場～防人見返りの峠～並列古道跡(古代東海道跡)  
～古道五叉路～別所桜並木～京王多摩車庫方面へ

コース2: 丘の上広場～天王の森～白山神社～旧多摩聖蹟記念館～  
聖蹟桜ヶ丘駅方面へ(または、天王の森～若葉台公園～上谷戸  
/三沢川沿い遊歩道～稻城駅方面へ)

【西コース】 12月9日、2月10日、4月14日  
小田急多摩線唐木田駅 9:30集合

コース1: 総合福祉センター～(奥州廃道)～奥州古道(常磐ルート)  
～正山寺・鶴見川源流～長池公園～京王堀之内駅へ

コース2: 総合福祉センター～(奥州廃道)～小山田緑地～奥州古道  
(中尾道)～石仏群～一本杉公園～妙櫻寺(鎌倉古道)～  
京王多摩車庫方面へ



4月6日(土) 観桜ウォーキング 京王相模原線若葉台駅 9:30集合  
参加費 / 団員300円、一般500円 ガイド : 須知正度(団員) (連絡先 ☎090-3695-7580)

## 宮田団長が案内するイベントと各地の旅のご案内

11月8日(木) 【2泊3日の旅】

〔主催: クラブツーリズム 街道あるき〕

～10日(土) 熊野古道と徐福伝説の里をあるく

《内容》 熊野古道中辺路を本宮まで歩き、また新宮や熊野市の徐福伝説地(秦の始皇帝の命で不老不死の薬を求めて日本に上陸した)を宮田講師の案内で巡ります。神武天皇が立ったゴトビキ岩や神倉神社、波田須の徐福の宮やイザナミノミコトが火ノ鳥神を産んだ神話の花の巖(はなのいわや)、鎌倉時代の熊野古道石畳など珍しい熊野古道を満喫しましょう。

11月28日(水) 【3泊4日の旅】

〔主催: 朝日カルチャーセンター事業部〕

～12月1日(土) “長崎五島列島の旅”

《内容》 五島列島こそ天皇家にもつながる文化の源流が入ってきた西の入口ではないか。また天照大神の直系の2系統のうちの一つをつなぎだ神の名が五島列島の昔の名前と一致しているなどの点を踏まえて、九州の「海の道」の魅力を探っていきます。

2013年

2月16日(土) 歴史講演と音楽イベント“橋本むかしの道の物語”

〔主催: (社)相模原法人会 橋本支部〕

《内容》 歴史ある相模野の橋本には国道16号線の元になった旧八王子街道・小田原道、旧川越道の「橋本宿」の名残を今も感じられるエリアがあります。街道に面した古い門構えの家や歴史あるお寺があります。御殿峠を経て八王子横山村へと続いた鎌倉街道沿いの瑞光寺さんにて、古代から中世の壮大な歴史物語をいまに蘇らせます。ぜひ皆さんお誘いでご参加下さい。

※詳細は追ってホームページやチラシでご案内致します。

会場: 相模原市旧橋本宿・瑞光寺 出演予定: 防人軍団、みやたたろう歴史語り、日本の子守唄・長澤かおる

2月19日(火) 【2泊3日の旅】

〔主催: 朝日カルチャーセンター事業部〕

～21日(木) 伊勢国の古代遺跡と謎を探る～鈴鹿・伊勢・答志島の太陽信仰遺跡～

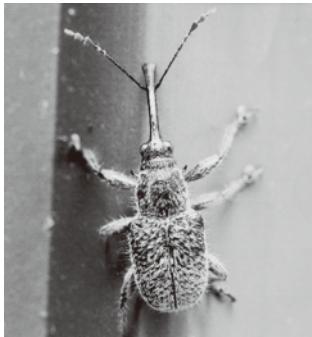
《内容》 伊勢神宮はなぜ全国筆頭の神社最高位となりえたのか、天皇家が奉祭する天照大神の宮と言われながら持続天皇から明治天皇までの間は行啓されなかったのはなぜか、また大和の都から見て「日の出する東端が伊勢」、「日の没する西端が出雲日御崎」と言われながら内宮から日の出が見えない謎など、数々の不思議を探る特別編です。伊勢国の国府や中心地「鈴鹿」のヤマトタケルの真の陵墓や猿田彦の古墳、斎宮遺跡や伊勢湾の重要な海賊島の古墳も探っていきます。古代の伊勢国が見える旅にぜひご参加下さい。

お問い合わせ ◎クラブツーリズム 街道あるき ☎03-5323-6681 ◎朝日カルチャーセンター事業部(新宿) ☎03-3344-2041



## ハイイロチョッキリの独り言

拝啓 歴史古街道団の皆様へ  
さしもの猛暑もおさまり、ウォーキングが快適なシーズンになりましたね。ところで皆さん、ウォーキングの途中、公園の遊歩道や古街道などで台風や大風も吹かないのに、緑の葉に青いドングリがついたコナラの小枝が落ちているのを目撃したことがありませんか。良く見るとドングリのはかま(核斗という)に小さな穴がありませんか。誰の仕業でしょうか、それは私、名前をハイイロチョッキリと申します。自己紹介させてもらいますと「チョッキリゾウムシ科」の体長7~9mm(口吻を入れると約18mm)の小さな甲虫です。7月頃蛹から羽化し世の中に誕生します。まだ小さくて未熟なドングリを食べて成長し、交尾したメスはドングリが急速に大きくなる9月頃、めぼしいドングリのついた小枝を少し切り、ドングリのはかまの外側から長い口吻で穴をあけその中に卵を1



ハイイロチョッキリ

つ産み付け、他のドングリにも同様に卵を1つ産み付けていきます。その後、その時にた屑で穴をふさぎ他者が入らない様にしてから枝を切り落とします。

何でそんな事をするのかって?

こんな小っぽけな私でも、色々研究をしてくれる人がいて、植物体内の液体の還流を止める事で穿孔しやすくする為とか、産んだ卵への影響を弱めるとかの効果があるのではと代弁してくれています。また切り落とすのは多重産卵を回避する為とも言ってもらっています。でも実際には全部切り落としていませんが、いずれは自然に落下してくれます。

さて落下したドングリの中では幼虫が誕生、中の子葉を食べ成長し、殻を破ってドングリより脱出、土中で越冬し蛹となり7月頃羽化して成虫が誕生する事になります。

9月頃コナラのドングリ周辺を注意深く観察してみてください。私が見つかるかもしれません。でも見つけてもそっとしておいて下さいね。

—ハイイロチョッキリより—

[記:都築 仁哉(団員)]



### 第二弾

### その「数」なぜ使われる?



須知 正度(団員)

前回は、慌てて書きましたので、忘れ物が発生しました。一、二及び参考文献です。

私が考えていますこれらの由来は、一は頭で、二は両手、両足(両目、両耳も)でしょう。これらには、ほとんど疑問の余地がないと思っています。

参考文献を挙げます。①吉野裕子著『陰陽五行と日本の文化—宇宙の法則で秘められた謎を解く』2003年 大和書房、②柳谷晃著『一週間はなぜ7日になったのか—數学者も驚いた、人間の知恵と宇宙観』2012年 青春新書 をご参照ください。

では、本題に入りましょう。

#### (3) 陰陽説に従っていると見られる数

これに属すると考えているのは、四と八および九です。ご承知とは存じますが、まず、陰陽説を簡単におさらいしておきます。

陰陽説とは、「元気」という氣があり、そこから出発します。それは「陽気—元気がある」と「陰気—元気がない」に分けられます。「陽気」は明るい、積極的、目立つなどを代表し、「陰気」は暗い、消極的、ひかえめなどを代表するとされます。世の中の物、物事、人の考え方など、すべてを「陽」と「陰」の二元に分けて見る考え方です。

この考え方に入ると、自然数もそのように分けられ、奇数

が「陽」、偶数が「陰」です。また、奇数の一~九を少陽~老陽、偶数の二~八を少陰~老陰と言います。

では、順次、述べて行きます。

① 四の由来は、顔の正面向き(胸の向き)、背中の向き(身体の裏側)、身体の右側と左側を加えて四方と考えられます。あるいは、太陽の昇降する方角、つまり東西と動かない星(北極星)が見える方角、北とその反対の南の東西南北。いずれも方角。従って、四方(四角)が原点で、例えば四季、四時、四天王などは、後からと考えられます。気が下降して行き着くところが「地」とされ、形は四角。下降する気は「陰の気」、陰気。

② 八は、八方(四方八方)が代表で、八角、八坂、八王子、八重、八大など。東西南北の四方の中間に北東(東北)、南東(東南)、南西(西南)、北西(西北)の四つの方角を加えて、八方。やはり、「方形」で「地」を代表させ、八は陰(老陰)です。

少し観点が異なる話ですが、「やすみしし」を初句にする万葉歌が22首あります。それは、「大王(おおきみ)」の枕詞で、万葉仮名(漢字)で表すと「ハ隈知之」(16首)、「安見知之」(6首)です。これを、ある学者は「休みしし」と解し、大王(天皇)が休む(寝る)ことに宗教的な意味があるのではないか?という解釈をしていたとある本で読んだことがあります。正直、

噴き出しそうになりましたよ!「やすみしし」は大王がその土地の八方を治めている(あるいは、治めていた)と解釈すべきでしょう。従って大王が亡くなつて埋葬されたと見られる八角墳はこうした考え方によると思います。

③九は、九重で、皇居、天皇の居る所。

気が上昇して行き着くところが「天」とされ、形は丸、「円形」。上昇する気は、「陽の気」、陽氣。九は陽(老陽)です。

九が一から九までのすべての自然数をその範囲とし、一つ一つが意味を持っているとします。例によって、その和を計算すると、45で9の倍数です。

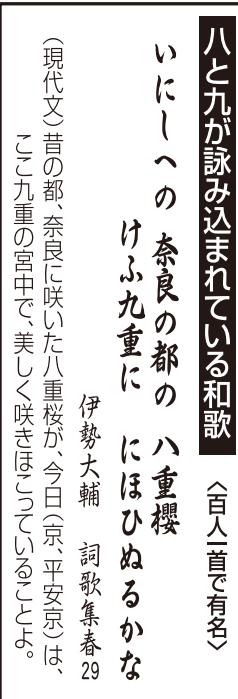
ここで、九の蘊蓄を述べます。9の倍数は、その数の各桁の数字を1桁になるまで加えると、9になります。例えば、いくつでも挙げられますかが63、108、189、1278などが9の倍数です。試してみてください。

先程、考察したハに対して、九と同様のことを行つてみます。つまり、一から八までの自然数の和を計算します。それは36です。あら不思議! 9の倍数です。これは、ハ(地)が九(天)に従つてゐることの証でしょうか? 天(九)に成り代つて、大王や天皇が地(ハ)を治めても、それでも天(九)に支配されるということでしょうか?

(余談)陰陽説から前方後円墳を見ると、次のようなことが言えるでしょう。

前方後円墳は、日本列島各地の墳墓の合成で「和」の墳墓と見ています。具体的には、①四隅突出型墳墓(出雲地域)ー扁平な礫石を斜面に葺いた、②方形墳墓(丹後地域)ー周濠付きか?、③樁築墳墓(吉備地域)ー特殊器台・特殊壺を樹立した円形や方形、④前方後方墳(近江から東海地域)、⑤副葬品(北九州地域)とされています。

前方部は、四角形と三角形を合成した台形。四角形は上述



発掘中の八角墳?(中山莊園古墳、宝塚市)

の「地」を表し、三角形は「山」で五行説から「土氣」で大きいなる土。万葉歌でも「死者」を「山の岩を枕にする」とも表現されます。人は、土から生まれ土に帰るとも言われますね。

後円部は、丸(円形)で、しかも山形です。さらに、詳しくみると、後円部の埋葬施設上部の内方外円区画は、「天円地方」を体現しています。大地は方形で人の住む空間、天は円形で神の住む空間という考え方です。

前方後円墳は、3世紀半ば頃から造営され始めたと言われていますね。言うまでもありませんが、こうした古墳の築造技術と共に埋葬観念も伝わっていた証でしょう。日本書紀によれば、6世紀前半に「陰陽説」や「五行説」が百濟から「公伝」したとされていますが、遙かに早く伝えられていたと言えるでしょう。

次回は、常用される二桁の数(自然数)について述べる予定ですので、よろしくお願ひいたします。併せて、お読み頂いた方からのご叱正もお願ひいたします。

## 歴史古街道団 団員募集中です!

団員は、団主催行事参加費を割引、歴史口マン古道ニュース(団報)をお送りします。

年会費は3,000円(4月より翌年3月まで 10月以降入団は1,500円)

### [お申し込み方法]

郵便振替用紙に、「入団」とご記入、ご自分の住所・氏名も記入いただき、年会費をお振込みください。ウォーキング参加時等に、団役員へお申出いただいても手続きをいたしますので、お気軽にどうぞ。

### [振込先]

□座名▶歴史古街道団  
郵便振替▶00140-7-445195  
□座番号▶042-373-7382

## 地域史懇談会

ウォーキング参加者や団員相互の交流をより一層図ろうと、今年4月から2ヵ月に1回程度開催している「地域の歴史の情報交換会・学習会」です。

この会合からガイドウォーキングの企画・実施や伝統行事の謎解きの試みなど、いくつかの成果が現れつつあります。

今年度は後、次の2回を予定していますので、奮ってご参加ください。

■12月8日(土)10:00 関戸公民館第一学習室 参加費:500円  
犬飼康祐氏「多摩の石仏について~鎌倉街道を中心に」

■2月9日(土)14:00 ピザ・ハウス(多摩センター近く)店未定  
参加費:資料代+飲食実費  
宮田太郎氏よりのお題(自由な意見交換)  
「多摩は本当に古街道が集まる里なのか」

■お申込み:当日 ■お問い合わせ:(団)須知 ☎ 090-3695-7580



# 歴史古街道団予定表 (2012年11月～2013年4月)

※注 (団)=歴史古街道団 【宮田】=宮田太郎ウォーカー 【学】=講演会・学習会 【ガイド】=ガイドリーダーウォーカー

月日	集合場所・時間	探索・学習テーマ	参加費	申込み	問合せ先
11月3～4日 (土～日)		【旅行】茨城県・霞ヶ浦・行方市「なめがたフットバス」体験参加ウォーカー	行方フットバス実行委員会・日本フットバス協会		
11月4日 (日)	JR中央線「西国分寺駅」北口改札前10:00	【ガイド】国分寺崖線の今昔	団員:500円 一般:700円	当日	(団)佐藤 TEL042-373-3193
11月8～10日 (木～土)		【旅行】熊野古道と徐福伝説の里をあるく	クラブツーリズム主催TEL03-5323-6681 <a href="http://www.club-t.com/">http://www.club-t.com/</a>		
11月11日 (日)	京王相模原線若葉台駅改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！東コース	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
11月23日 (金)	多摩センター駅	東国歴史フットバスをあるく①「古街道の集まる歴史古道の里・小野路」	東国歴史フットバスPJ、アイネストラベルサービス根本・谷畠TEL03-53403330		
11月25日 (日)	横須賀線「東戸塚駅」改札口前10:00	【宮田】武相国境・古道シリーズ「東戸塚～保土ヶ谷戸塚境」編	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL090-7002-3431
11月28日(水)～12月1日(土)		【旅行】海の道シリーズ“長崎五島列島の旅”		朝日カルチャーセンター事業部	
12月2日 (日)	西武新宿線「入曽」駅東口改札口前10:00	【ガイド】「いいまじ」の探索	団員:500円 一般:700円	当日	(団)山下 TEL090-5208-3123
12月8日 (土)	関戸公民館8F第1学習室10:00聖蹟桜ヶ丘駅徒歩3分	【学】“地域史懇談会”、“多摩の石仏について～鎌倉街道を中心に”担当:犬飼康祐氏	参加費:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
12月9日 (日)	小田急多摩線「唐木田駅」改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！西コース	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
12月19日 (水)	横須賀線「東戸塚駅」改札口前10:00	【宮田】武相国境・古道シリーズ「戸塚・六ツ川の国境古道をあるく」	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL090-7002-3431
1月7日 (月)	東急目黒線不動前駅改札口前10:00	【ガイド】新暦七草の目黒七福神めぐり	団員:500円 一般:700円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
1月13日 (日)	京王相模原線若葉台駅改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！東コース	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
1月19日 (土)	関戸公民館8F大会議室09:30聖蹟桜ヶ丘駅徒歩3分	【講】『多摩の六十六部について』、講師:乾 賢太郎氏(パルテノン多摩学芸員)	団員:700円 一般:1,000円	当日 先着90名	(団)須知 TEL090-3695-7580
1月26日 (土)	JR「大船駅」南口改札口前10:00	【ガイド】鎌倉「百八やぐら」を探る	団員:500円 一般:700円	当日	(団)藤田 TEL080-5184-9840
1月30日 (水)	京急「上大岡駅」改札口前10:00	【宮田】武相国境・古道シリーズ「上大岡・日野川と港南・馬洗川の国境古道」	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL090-7002-3431
2月2日 (土)	関戸公民館8F大会議室14:00聖蹟桜ヶ丘駅徒歩3分	【講】発掘が語る“古代都市・武藏国府”、講師:江口 桂氏(日本考古学協会会員)	団員:700円 一般:1,000円	当日 先着90名	(団)宮田 TEL090-7002-3431
2月9日 (土)	ビザ・ハウス(多摩センター近く)店未定14:00	【学】“地域史懇談会”、“多摩は本当に古街道が集まる里なの？”担当:宮田太郎氏	参加費:資料代+飲食実費	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
2月10日 (日)	小田急多摩線「唐木田駅」改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！西コース	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
2月16日 (土)	相模原市旧橋本宿・瑞光寺	【講】歴史講演と音楽イベント“橋本むかしの道の物語”、出演予定:防人軍団、みやたたろう歴史語り、日本の子守唄・長澤かおる		主催: (社) 相模原法人会 橋本支部	
2月19日(火)～21日(木)		【旅行】伊勢国の古代遺跡と謎を探る～鈴鹿・伊勢・答志島の太陽信仰遺跡～		朝日カルチャーセンター事業部	
2月24日 (日)	JR根岸線「港南台駅」改札口前10:00	【宮田】武相国境・古道シリーズ「港南・日野南の国境古道大曲り」	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL090-7002-3431
3月7日 (木)	関戸公民館8F大会議室09:30聖蹟桜ヶ丘駅徒歩3分	【講】「東北エミシ古道の魅力～蝦夷の首長アテリイとモレの砦～」	団員:700円 一般:1,000円	当日 先着90名	(団)宮田 TEL090-7002-3431
3月10日(日)	京王相模原線若葉台駅改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！東コース	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
4月6日 (土)	京王相模原線若葉台駅改札口前09:30	【ガイド】観桜ウォーキング	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
4月14日(日)	小田急多摩線「唐木田駅」改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！西コース	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580

## ◆編集後記◆

ウォーキングに最適な季節がやってきました。仲間と歩きながら語り合い、体と頭を活性化しましょう。

先日、多摩の語り部であった峯岸松三さんが逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

編集責任:歴史古街道団(藤田)

## 【発行】歴史古街道団

事務局:〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮4-7-10  
事務局長 濱野千秋 TEL 042-373-7382

歴史古街道団 団長 宮田太郎 TEL 090-7002-3431

ホームページ <http://rekodan.a.la9.jp/>